

シラバス

指定番号 89
商号又は名称： 大阪千代田短期大学

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようにさせる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①多様なサービスと理解	2.5	2.5		<講義内容> 多様なサービスの理解
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3.5	3.5		<講義内容> 介護職の仕事内容や働く現場の理解
③				
④				
⑤				
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 89

商号又は名称： 大阪千代田短期大学

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①人権と尊厳を支える介護	3.5	3.5		<講義内容> ・人権と尊厳の保持 ・介護分野における ICF ・ QOL の考え方 ・ノーマライゼーションの考え方 ・ 虐待防止、身体拘束禁止 ・ 個人の権利を守る制度の概要
②自立に向けた介護	3.5	3.5		<講義内容> ・ 自立支援や介護予防
③人権啓発に係る基礎知識	2	2		<講義内容> 人権啓発に係る基礎知識
④				
⑤				
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 89

商号又は名称： 大阪千代田短期大学

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づかせ、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解させる。 ・介護を必要としている人の個別性を理解させ、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができるようにする。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	2		<講義内容> ・介護環境の特徴の理解 ・介護の専門性 ・介護に関する職種
②介護職の職業倫理	1.5	1.5		<講義内容> 介護職の職業倫理
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1.5		<講義内容> ・介護における安全の確保 ・事故予防、安全対策 ・感染対策
④介護職の安全	1	1		<講義内容> 介護職の心身の健康管理
⑤				
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 89

商号又は名称： 大阪千代田短期大学

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できるようにする。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護保険制度	5	5		<講義内容> ・介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・仕組みの基礎的理解 ・制度を支える財源、組織、団体の機能と役割
②医療との連携とリハビリテーション	2	2		<講義内容> 医療との連携とリハビリテーション
③障がい者総合支援制度およびその他制度	2	2		<講義内容> ・障がい者福祉制度の理念 ・障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ・個人の権利を守る制度の概要
④				
⑤				
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 89
商号又は名称： 大阪千代田短期大学

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識させ、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護におけるコミュニケーション	3	3		<講義内容> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況に応じたコミュニケーション技術の実際
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		<講義内容> ・記録における情報の共有化 ・報告 ・コミュニケーションを促す環境
③				
④				
⑤				
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 89
商号又は名称： 大阪千代田短期大学

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づかせ、自らが継続的に学習すべき事項を理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①老化に伴うところとからだの変化と日常	3	3		<講義内容> ・ 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・ 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
②高齢者と健康	3	3		<講義内容> ・ 高齢者の疾病と生活上の留意点 ・ 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点
③				
④				
⑤				
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 89
商号又は名称： 大阪千代田短期大学

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づかせ、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①認知症を取り巻く状況	1.5	1.5		<講義内容> 認知症ケアの理念
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1.5		<講義内容> 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	2		<講義内容> ・認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 ・認知症の利用者への対応
④家族への支援	1	1		<講義内容> 家族への支援
⑤				
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 89
商号又は名称： 大阪千代田短期大学

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と ICF、障がい者福祉の基本的考え方について理解させ、介護における基本的な考え方について理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①障がいの基礎的理解	0.5	0.5		<講義内容> ・障がいの概念と ICF ・障がい者福祉の基本理念
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	2	2		<講義内容> ・身体障がい ・知的障がい ・精神障がい (高次脳機能障がい・発達障がいを含む) ・その他の心理の機能障がい
③家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5		<講義内容> 家族への支援
④				
⑤				
(合計時間数)	3	3	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 89
商号又は名称: 大阪千代田短期大学

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識や安全な介護サービスの提供方法等を習得・理解させ、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようにする。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得させる。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
ア ①介護の基本的な考え方	4	4	/	<講義内容> ・介護の基本的な考え方
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	3	/	<講義内容> ・介護に関するこころのしくみの基礎的理解
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	3	/	<講義内容> ・介護に関するからだのしくみの基礎的理解
(合計時間数)	10	10	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 89

商号又は名称： 大阪千代田短期大学

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標				
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
イ ④生活と家事	5	5		<講義内容> ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 <演習内容> 掃除や洗濯、衛生管理
⑤快適な居住環境整備と介護	5	5		<講義内容> ・快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 <演習内容> 福祉用具の使い方、活用方法
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術 <演習内容> 洗面・洗顔、爪の手入れ、口腔ケア、着脱介助
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> ・移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 <演習内容> 体位変換、車いす介助、歩行介助、移乗
⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> ・食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 <演習内容> 食事に関する福祉用具の活用、食事介助
⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 <演習内容> 入浴介助、全身清拭、陰部洗浄、目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、足浴・洗髪

⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> ・排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <演習内容> トイレ・排泄介助、オムツの交換
⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> ・睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <演習内容> ベッドメイキング、シーツ交換・たたみ方
⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3	3		<講義内容> ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援 <演習内容> 介護職員の役割（ロールプレイング）
(合計時間数)	55	55	0	

使用する機器・備品等	ベッド、シーツ、マットレス、車椅子、杖、歩行器、食器、食事用自助具、入浴室、入浴補助用具、入浴用いす、洗面器、ケリーパット、足洗い桶、ポータブルトイレ、紙おむつ、尿器、防水シート
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 89

商号又は名称： 大阪千代田短期大学

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標				
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
ウ ⑬介護過程の基礎的理解	5	5		<講義内容> 介護過程の基礎的理解
⑭総合生活支援技術演習	5	5		<講義内容> 事例による展開
(合計時間数)	10	10	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 89
商号又は名称： 大阪千代田短期大学

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認をさせるとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはからせる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①振り返り	3	3		<講義内容> 振り返り
②就業への備えと研修修了後における実例	1	1		<講義内容> 就業への備えと研修修了後における継続的な研修
③				
④				
⑤				
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。